

平成 30 年度予算「IoT サービス創出支援事業」に係る委託先候補の決定

総務省は、平成 30 年度予算「IoT サービス創出支援事業」に係る提案について、外部有識者による評価を踏まえ、全国で 14 件、近畿総合通信局（局長：安藤 英作（あんどう えいさく））管内では 1 件を委託先候補として決定しました。

1 事業概要

本事業は、情報通信審議会の「IoT／ビッグデータ時代に向けた新たな情報通信政策の在り方について 第四次中間答申」（平成 29 年 7 月 20 日）等において提言された、データ利活用を促進するモデルを構築するとともに、必要なルールの明確化等を行うことを目的とした事業です。

具体的には、地方公共団体、民間企業、大学、NPO 法人等から成る地域の主体が、生活に身近な分野において、地域の課題解決に資する IoT サービスの実証を通じて、そのリファレンスモデルを創出・展開するとともに、必要なルールの明確化を行うものです。

2 決定内容

平成 30 年 3 月 16 日（金）から同年 4 月 19 日（木）まで公募を行ったところ、135 件の提案がありました。今般、「IoT サービス創出支援事業の評価に関する会合」における評価を踏まえ、全国で 14 件、近畿管内では以下の提案を委託先候補として決定しました。

代表提案者	事業名	実施地域	分野	提案概要
凸版印刷株式会社	IoT × サテライト拠点による「生涯活躍」推進事業	兵庫県三木市	医療・福祉	別紙

【参考】

- ・ 身近な IoT プロジェクトホームページ
<http://www.midika-iot.jp/>
- ・ IoT サービス創出支援事業（平成 30 年度予算）に係る委託先候補の決定
http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/02ryutsu02_04000299.html
- ・ 平成 30 年度予算 IoT サービス創出支援事業に係る提案の公募
http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01ryutsu02_02000199.html

連絡先：情報通信部 情報通信振興課
担 当：伊東、岩本
電 話：06-6942-8520

凸版印刷株式会社

IoT×サテライト拠点による「生涯活躍」推進事業

提案者	凸版印刷株式会社、大和ハウス工業株式会社、奈良県立医科大学、株式会社情報医療、株式会社エクスレイヤー、三木市、一般社団法人 三木市生涯活躍のまち推進機構
対象分野	医療・福祉
実施地域	兵庫県 三木市 緑が丘地区・青山地区
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 少子高齢化が進む三木市ではサテライト拠点を核とした地域活性化施策を実施している。特に疾病の中で医療費に占める割合が最も高い「高血圧性疾患」対策が最重要課題(日本全体でも高血圧性疾患は65歳以上の医療費に占める割合が最高。) ▶ 本事業は、血圧に影響する情報(脈拍・BMI・活動量・温度・気圧・服薬状況等)を網羅的かつ継続的に収集し、ビックデータ分析してサテライト拠点での保健指導や遠隔診療等に活用することで、患者一人ひとりに寄り添った適切かつ継続的な高血圧性疾患対策を行う事業である。

地域課題(問題点)

医療費等社会保障費の高騰

三木市の高血圧の医療費(外来)は4億円と高額(H26年度)。今後さらに医療費が高騰し、市の医療財政圧迫が見込まれている。

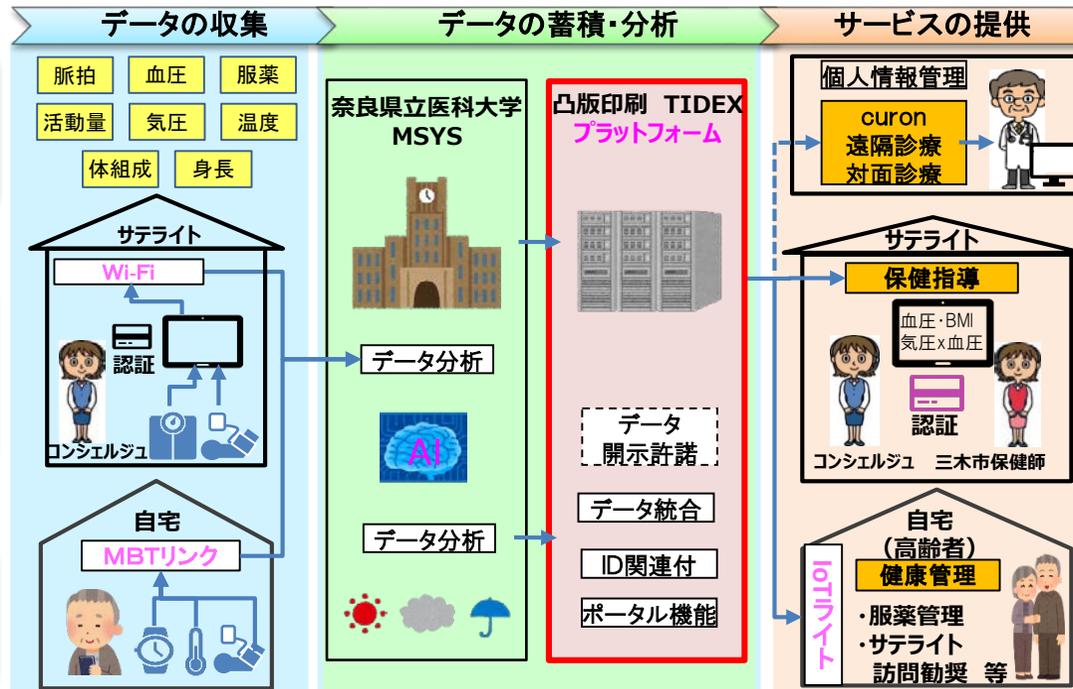
高血圧症の重症化

三木市の高血圧症患者の割合は23.5%(5176名)と疾病の中で最も高い。脳出血、心筋梗塞等の合併症を引き起こす恐れがあるにも関わらず、治療継続率は45%と低い。

健康無関心層の増大

兵庫県の特定健診比率34.1%に対し、三木市の受診率は23.4%(41市町村中40位)で、住民の健康に対する意識が低い(H28年度)。

地域課題解決に資するIoTサービス



実証成果(KPI)

長期目標 高血圧症重症化予防による医療コストの削減
 当該サービスにより、市の医療財政を2030年までに年間1.9億円縮減することを目指す。

年度目標 適切かつ継続的な高血圧症対策の実施
 モニターの
 ・平均血圧値を5mmHg以上低減
 ・治療継続率45%⇒80%以上を目指す。

年度目標 住民の健康意識の向上と行動変容
 モニター健康意識の指標として、特定健診受診率23.4%⇒30%を目指す。